

林業普及指導員活動実績発表要旨

事務所名：石川農林総合事務所（石川指導区）

発表者名：○岡山 剛、中島 健太郎

テーマ：県産材の利活用促進にむけて【森林土木職員ができる普及活動】

1. 普及活動のねらい

石川指導区では、県の木材利用方針に基づき、公共土木工事等における県産材の利活用を促進するため、森林土木職員が中心となって普及活動に取り組んだ。

特に今年度は公共土木工事の集中により、木材使用量が倍増し、年度当初から資材確保に懸念があったことから、その対策等のため、【未利用材による資材確保】及び【県産スギを40%以上使用したコンクリート型枠合板の普及啓発】をテーマに普及活動を行った。

2. 普及活動の内容

1. 森林組合と連携した未利用材等の活用による資材（木材）確保

- ① チップにされていた未利用部材を落石防護柵の緩衝材用の木材として活用
- ② これまで緩衝材に加工していなかった小径丸太【14cm～16cm未満】の製品化

2. 県産スギを40%以上使用したコンクリート型枠合板の普及・啓発

- ① 県事務所での県産型枠合板のサンプルの製作・展示(ヘルメット置場として展示)
- ② 事業者への製品説明会の開催

3. 普及活動の評価

- ・ 未利用材の活用により、公共土木用資材の確保と原木歩留りの向上につながった。
- ・ 未利用材及び小径丸太の新たな用途を作り出したことで、川上側への原木搬出の動機付けにつながった。
- ・ 今年度から本格運用となった県産型枠合板について、積極的な製品PR等を行うことで、多くの利用実績につながった。
- ・ 県産型枠合板を実際に使用してもらうことで、製品の性能・品質を理解してもらう良い機会となった。来年度も販売後のサポートとして、製品の性能・品質向上を検討していく。
- ・ 木材の安定供給に関して、利用者側に「木材を使わなければならない」という問題意識の希薄さがあることから、今後も普及・啓発に努めていく必要がある。